

# ESDの取り組み

## ユネスコスクール加盟までの道のり ～実践の紹介～

本校では、令和6年1月に「ユネスコスクール」への加盟申請を行い、1年間のチャレンジ期間を経て、令和7年11月に正式に加盟という形になりました。（東京都の特別支援学校では、初めての学校になります。）

ユネスコスクールとは…

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念や目的を、学校の組織運営、授業、経営方針などに広く定着させて「児童生徒の心の中に平和のとりでを築く」ことを目指す、ユネスコが認定する学校の国際ネットワーク。

本校では、社会貢献活動や環境についての学習、地域や世界に目を向けて関心を高める学習を通して、「地域の人たちと一緒に活動すること」や「家族や仲間、地域や社会のためにできること」を考え行動してきました。今回はその中からⅡ部門高等部での活動について紹介いたします。

### ○ユニセフの活動を知ろう ～募金を通じて支援をしよう～

Ⅱ部門高等部では昔から作業学習や現場実習等で地域とのつながりを築いてきましたが、「貢献・活用・協働・発信」のキーワードのもと、もっと深いつながりを求めて平成29年度より「さくら運送」とユニセフについての学習がスタートしました。この時期は数年後に「東京オリンピック」が予定されており、世界の国々についても関心を高めていこうということも踏まえての活動になりました。世界の国の地理、産業、言語について調べたり、ユニセフの活動について学習したりすることで、世界の貧困や紛争、経済格差について学んだりしましたが、その柱となるものが「ユニセフ募金」でした。

「ユニセフ募金」は多摩桜祭で、各家庭に募金封筒を配布し募金をお願いする活動です。生徒が自ら募金箱やポスターを作成し、桜祭当日に募金活動を行いました。実際、自分たちの活動で募金が集まることへの喜び、そして募金がワクチンや食糧支援へ変わる喜びを感じることができました。

その他にも、北海道への修学旅行が直前に現地の地震により延期になった時の永山駅での現地支援の募金活動（平成30年度）、新型コロナウイルスが流行した時期（令和2年度から4年度）に人との接触を避けながらの募金活動の工夫、ユニセフ職員による出前授業の実施（令和元年度～）など、着実に活動の充実を図ることができました。

